

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

ブドウべと病の防除対策を徹底しましょう！

ブドウべと病については、今年6月の定期調査の結果、発生が平年より多かったことから、今後、さらに発病が増加すると早期落葉による果実の着色遅延・糖度低下や、次年度の花芽が充実不良となる恐れがあります。

つきましては、下記事項を参考に、防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。



記

写真1 ベと病の罹病葉

1. 発生状況

- (1) 定期調査では、発生圃場率 66.7%、発生葉率 3.5%であり、発生葉率は平年(0.2%)及び前年(0%)より高い。

表1 ブドウべと病の発生葉率 (6月16~19日調査)

圃場	A	B	C	D	E	F	平均	
							本年	平年
発生葉率 (%)	1	0	0	11	4	5	3.5	0.2

2. これまでの気象の推移と今後の発生予想

- (1) 今年5月~6月上旬の降水量が352.0mm(平年比150%)と平年より多かったため、感染・発病が助長されたと考えられる。
- (2) 九州北部地方の向こう1か月の気象予報(福岡管区气象台6月22日発表)では、降水量は平年並で気温は平年より高いとされているが、この期間(6/24~7/21)は「曇りや雨の日が多い」と予想されており、感染しやすい条件が続くと考えられる。

3. 防除対策

- (1) 風雨によって発生が増加するので、表2を参考に雨の合間に薬剤防除を実施する。
- (2) 罹病葉は二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- (3) 袋かけ等の作業が遅れている園では速やかに袋かけを行い、袋かけ後早急に薬剤防除を実施する。
- (4) ボルドー液、ICボルドー48Q、ICボルドー66Dで防除を行う場合、アピオンE1000倍を加用すると防除効果が向上する。
- (5) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。

- (6) 本病の病原菌は、ストロビルリン系殺菌剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル等）に耐性を発生を認めているため使用しない。
- (7) 新梢管理等で込みすぎを防ぎ、園内の採光、通風を良くする。
- (8) その他、防除の詳細は「令和5年度版 施肥・病害虫防除・雑草防除のてびきく 水稲・大豆・果樹・茶」（341～343）」を参照する。

表2 ブドウべと病の主要な防除薬剤¹⁾

FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	本剤の 使用回数	備考
22	エトフィンフロアブル	1,000倍	7日前まで	4回以内	
40	フェスティバル水和剤	2,000倍	大粒種ブドウの場合 30日前まで 小粒種ブドウの場合 45日前まで	2回以内	
40	レーバフロアブル	2,000倍	7日前まで	3回以内	
21	ランマンフロアブル	2,000倍	14日前まで	3回以内	
21	ライメイフロアブル	4,000倍	14日前まで	3回以内	
27+40	ベトファイター顆粒水和剤	3,000倍	30日前まで	3回以内	
40+43	ジャストフィットフロアブル	5,000倍	30日前まで	3回以内	
M3+40	カンパネラ水和剤	1,000倍	45日前まで	2回以内	
M3+40	ベネセット水和剤	1,000倍	45日前まで	2回以内	
M1	ムッシュボルドーDF	500倍	—	—	袋かけ後に使用する。
M1	ボルドー液	※ ²⁾	—	—	
M1	I Cボルドー48Q	50倍	—	—	
M1	I Cボルドー66D	50倍	—	—	
M1+M2	イデクリーン水和剤	800倍	—	—	袋かけ後に使用する。薬害の点から過度な連用は避ける。
M1+M2	園芸ボルドー	800倍	—	—	

- 1) 表中の農薬登録情報は令和5年6月21日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新情報を確認する。
- 2) ボルドー液は商品によって希釈倍数が異なるため、薬剤の使用にあたっては登録情報を確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

